

[2016年04月24日](#)

アメリカの複数のメディアが、「テロ組織 I S I S はサウジによって育成され、C I A もこれを熟知」というタイトルの報告を、トップニュースとして大々的に報じました。

キャラミー解説員

サウジアラビアの自白に関する報告は初めて、イギリスの新聞フィナンシャルタイムズがアメリカのケリー国務長官に関する記事において発表し、「サウジアラビアはケリー長官に対し、I S I S はサウジによって育成されたこと、これは C I A ・アメリカ中央情報局にとっても周知の事実であることを伝えた」と報じました。フィナンシャルタイムズによるこの報道以来、今度はアメリカの報道各社がこの内容を再度報じています。サウジアラビアの関係者はまた、ケリー長官との会談で、「アメリカが中東問題に干渉しているため、サウジアラビアはまず、テロ組織アルカイダを、次いで I S I S の基盤を築いた」と語っています。サウジアラビアの主張によれば、2003年のアメリカによるイラク攻撃により、状況はイランにとって有利に転じ、イランに対する措置が講じられるべきだったということです。

アメリカ共和党の元連邦下院議員だったロン・ポール氏は、ロン・ポール研究所のダニエル・マクアダムス理事との会談で、「I S I S を自ら育成したというサウジアラビアの自白は、必ずしも衝撃的なことではない」と語りました。ロン・ポール氏によれば、サウジアラビアは C I A への通告なしに I S I S を出現させることはできなかったということです。ロン・ポール氏はまた、「C I A とアメリカ国防総省は、シリア危機の勃発により、同国のアサド大統領を辞任させるお膳立てをしており、まさにこのために I S I S を必要としていた」と述べました。

ロン・ポール研究所のダニエル・マクアダムス理事も、「I S I S を立ち上げ、資金援助を行ったのはサウジだが、I S I S とアルカイダが国際舞台に台頭する必要な条件を整えたのはアメリカだ」と考えています。マクアダムス理事によれば、この問題は中東への干渉というアメリカの政策が発端となっているということです。サウジアラビアは、強硬派の1つ・ワッハーブ派の発祥地であることから、過激派組織の形成に直接役割を果たしていますが、過激派はまた違った名称や方法により、ワッハーブ派の思想を利用してその存在を宣言しています。たとえば、サウジアラビアはテロ組織タリバンの結成に重要な役割を果たしていることが指摘できます。タリバンは次第に、サウジアラビアの資金を利用して、ワッハーブ派の思想の教育を開始し、過激派の新世代を育成しました。ロン・ポール氏によれば、彼らは I S I S となってテロリストの世界に入ってきたということです。

I S I S の原始組織は、2003年のイラク占領と同時に、「イラクとシャームのイスラム国」の発足を宣言しています。その指導者は、アルカイダの過激な危険因子で現在収監中のアブーバクル・バグダーディですが、彼はアメリカの口説きにより釈放されます。イラクのバース党政権の崩壊により、バース党の幹部と I S I S の協力関係が成立し、イラク政府は深刻な問題に直面することになります。バース党を I S I S との協力に誘導したのは、まさにサウジアラビアとアメリカによる共同の政策の結果なのです。

さらに、2001年のアメリカ同時多発テロに関する報告の、28ページにわたる部分の削除は、サウジアラビアがテロ支援に直接関与していることを裏付けています。しかし、アメリカ政府はサウジアラビアとの協力関係を理由に、同時多発テロにサウジが関与していた事実の公開に反対しています。この報告書の削除された部分には、C I A の名が直接あるいは間接的に述べられていると言われています。このような措置は、サウジアラビアの同時多発テロへの関与、C I A が地域におけるサウジの行動やテロ組織の結成を周知していたことが、疑いのない事実であることを物語っています。

[2017年12月06日](#)

現在、シオニスト政権イスラエルとアメリカが、イスラム教徒の対立の元凶であることは明らかです。この逸脱した流れは、過去半世紀以上の間、特に最近になってから、人間的、道徳的な価値観が薄れ、それに代わって、さげすむべき行動が見られるようになった原因です。このような残念な現象は、中東地域、つまり、イスラエルの強奪政権が押し付けた状況の中で、その最大の醜い姿をさらしています。この逸脱した流れの影響は、地域諸国の政治、道徳、社会問題に明らかになっています。この破壊的な流れの大部分は、サウジアラビアの部族主義やワッハーブ主義の中で広まってきた思想によるものです。この有害な思想は、イスラムが出現する無明時代から、逸脱したグループの間で保持されてきました。そして現在、このような思想を持つ人々は、オイルマネーを利用し、人類やイスラムにとって有害な存在になっています。サウジアラビアの支配者の現代的な無知は、イスラム諸国を暴力や戦争に引き込むための原動力となっています。現在、シーア派とスンニー派の対立といった欺瞞的な言葉の裏で、地域のバランスを崩そうとするサウジアラビアの支配者の悪しき目的は、覆い隠すことができなくなっています。なぜなら、目的は別のところにあるからです。その目的とは、イスラムの統一と連帯を崩すことです。イスラムの敵は、イスラムの抵抗を崩し、地域におけるアメリカとイスラエルの拡張主義の障害を取り除くためには、対立を生み出し、I S I Sやヌスラ戦線といったテロを広め、イスラムとイスラムの目覚めを標的にすべきだということを、よく知っています。こうした中、幸いにも、このような陰謀は、地域の人々の意志、特にテロとの戦いにおけるイランの責任ある行動や努力によって退けられており、覇権主義者は大きな平手打ちを食らいました。しかし、もしイスラム共同体の間に統一が存在しなければ、敵は再び、新たな陰謀を企ててくるのです。